

「動物に対する理学療法部門のトピックス」

動物に対する理学療法部門

運営幹事：吉川 和幸

2020年9月7日

《近年のトピックス》

◇国際シンポジウムに参加して

10th International Association of Veterinary Rehabilitation and Physical Therapy Symposium が 2018 年 7 月 30 日～8 月 3 日に Knoxville Convention Center (Knoxville, TN, USA=米国テネシー州)で開催されました。プログラムは犬と馬に分かれており、様々な研究発表やワークショップ(図 1)、講演(図 2)がありました。



図 1. ワークショップの様子



図 2. 講演の様子

1. 参加していた理学療法士の数が少ない

講演者やワークショップ担当者、研究発表者の多くは獣医師によるものでした¹⁾。獣医師による整形学的評価や神経学的評価、栄養学などの評価や動物看護師による行動学的視点に基づくリハビリテーションの展開など非常に興味深い講演が数多くありました。一方、理学療法士による講演や理学療法士の参加者は少なく、ヒトを対象に理学療法を実施する際に活用される身体運動学に関する発表は少ないと感じました。現状の動物に対するリハビリテーションで行われている獣医師や動物看護師の視点に理学療法士が得意とする身体運動学に基づいた動作の分析や理学療法プログラムの立案・実施の視点が交われれば、この分野のさらなる発展が期待できるのではないかと感じました。

2. 日本独自の発展が必要

今回のシンポジウムの各セッションを確認したところ、シニア犬に着目した講演や発表は見当たりませんでした。その理由の一つは、動物リハビリテーション先進国(欧米)では重篤な症状の動物に対して安楽死が実施されることが多いからではないかと推察されます。例えばイギリスでは飼い犬の約 80%は安楽死によって最期を迎え²⁾、アメリカでは臨床獣医師 1 人が 1 年間に行う安楽死処置数は平均 90.36 件と報告されています³⁾。一方、日本では臨床獣医師 1 人が 1 年間に行う安楽死処置数は平均 2.48 件³⁾とされており、欧米に比べて安楽死処置が非常に少ないようです。日本の獣医療現場において重篤な症状をもつシニア犬の飼い主様から「最期まで出来る限りのことをしてあげたい」と聞くことが増えてきたように思います。その思いに寄り添い、少しでも苦しみを軽減し、その子らしく生ききる手段として動物に対する理学療法への進歩は大きな可能性を秘めていると考えられ、日本独自に発展する必要性が感じられました。以下の写真は、筆者が勤務する動物病院での臨床場面および症例の家庭での様子です(図 3-5: 北海道動物運動器病院より提供)。



図 3. 食事介助の様子



図 4. 介助下での排尿



図 5. 起き上がり練習

3. 次回の国際大会

11 回大会は 2020 年 8 月にイギリスのケンブリッジ大学で開催される予定でしたが、コロナウィルスの影響により 2021 年 8 月 11-13 日に延期になっています。詳しくは以下の URL をご確認ください。

◇11th Symposium of the IAVRPT (HP)

<https://www.iavrpt.org/> (閲覧日: 2020 年 9 月 7 日)

◇11th Symposium of the IAVRPT (Facebook)

<https://www.facebook.com/symposiumIAVRPT/> (閲覧日: 2020 年 9 月 7 日)

◇International Association for Veterinary Rehabilitation and Physical Therapy (協会 HP)

<https://www.iavrpt.org/> (閲覧日: 2020 年 9 月 7 日)

《今後充実を図りたいこと》

◇獣医療に興味がある理学療法士の方々への情報提供

・基礎教育や広報活動

当部門 HP (<http://jspt.japanpt.or.jp/jsptap/>) (閲覧日：2020年9月7日) をご覧ください。

・獣医療業界での学術活動支援

現在は準備段階にありますが、これまで蓄積されてきた症例検討や一部の研究活動(図6)を基に学術活動支援を図りたいと考えています。

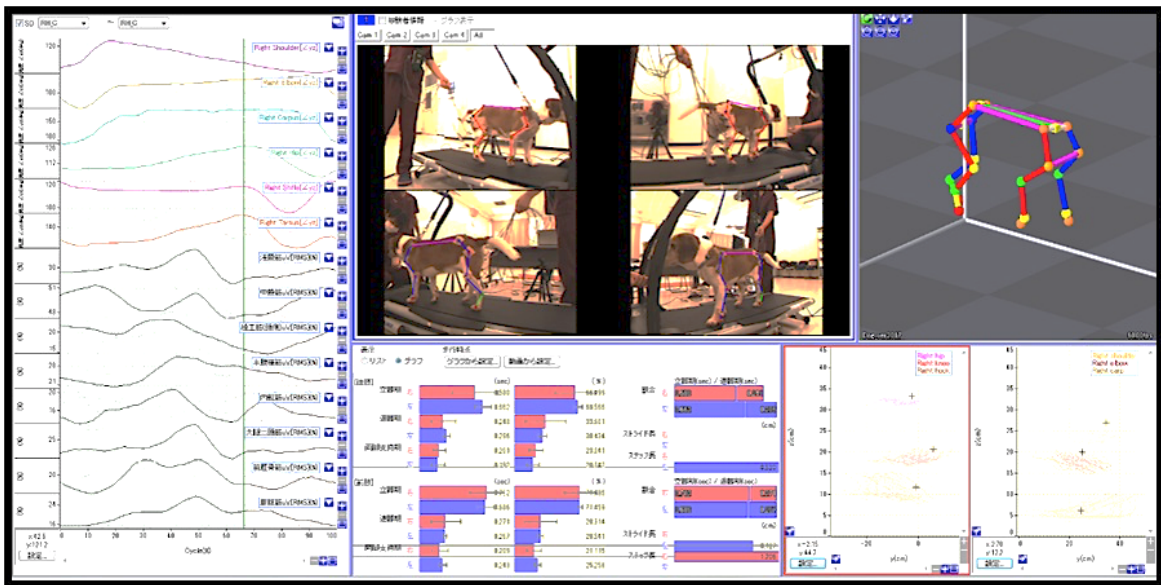


図 6. (犬の歩行)解析結果の一例⁴⁾

《引用・参考文献》

- 1) Proceedings of the 10th International Symposium on Veterinary Rehabilitation and Physical Therapy; and the Summit of the American Association of Rehabilitation Veterinarians; and the American College of Veterinary Sports Medicine and Rehabilitation: International Association of Veterinary Rehabilitation and Physical Therapy (IAVRPT) 2018 Abstracts. Acta Vet. Scand. 61: 6.
- 2) Lewis, T. W., Wiles, B. M., Llewellyn-Zaidi, A. M., Evans, K. M. and O' Neill, D. G. 2018. Longevity and mortality in Kennel Club registered dog breeds in the UK in 2014. Canine Genetics and Epidemiology 5: 10.
- 3) 杉田陽出: 不治の病にかかったペットは安楽死させるべきか?—JGSS-2006のデータに見る日本人のペット安楽死観—。日本版総合的社会調査共同研究拠点 9:53-72, 2009.
- 4) 奈良勲 他: 理学療法概論 第7版 第14章 理学療法の職域開拓「6. 犬の歩行分析(吉川和幸)」, 医歯薬出版株式会社, 275-278, 2019.